

## 大行院文書概要

- 1: 文書群番号 083007
- 2: 文書群名 大行院文書
- 3: 出所 大行院
- 4: 家業・役職等 -
- 5: 地名 摂津国川辺郡尼崎宮町／兵庫県川辺郡尼崎町／内尼崎町／尼崎市西本町
- 6: 行政区分 尼崎藩領／兵庫県第9区／尼崎町戸長役場／尼ヶ崎町／尼崎市
- 7: 歴史 宮町は旧尼崎町内の一町で、元和4年(1618)の尼崎城築城にともない、中在家町とともに城の西部に新設された。当町は城の西大手橋から西にのびる西町筋の北側と中在家町の西隣にあり、築城用地に居住していた商人が移転・集住して成立したものと考えられる。大行院は尼崎城築城の頃宮町に移転、昭和30年代まで同町にあった。真言宗醍醐寺派三宝院末の修験道寺で、港湾に近いことから金比羅権現も祀っていた。
- 8: 伝来 なんらかの理由で出所の所蔵を離れた本文書群を、昭和58年(1983)11月に史料館が古書籍商より購入。平成13年(2001)8月に整理・目録作成を完了した。
- 9: 史料入手先 古書籍商
- 10: 点数 7点(目録件数7件)
- 11: 年代 天明8年(1788)～慶応3年(1867)
- 12: 構造と内容 本文書群はいずれも書冊で、尼崎藩寺社奉行より伝達された触れや、大行院より同奉行にあてた願書・届出書を書き留めたものである。触れは鳴物停止令が多く、諸取締・疫病流行・尼崎領内(藩の海岸防備・武庫川大洪水等)関係のものもある。また届出・願書類は主に大行院の相続、山伏修行、金比羅尊への護摩執行、雨乞いに関するもの。同院の内情や修験道寺としての活動についてよく記した史料である。
- 13: 関連史料 尼崎大行院宛文書(未整理)
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 松迫寿代